

## 1 はじめに

本校の「志教育」は、「進路実現のためのキャリア学習」「コミュニケーション能力の育成」「防災学習」を3本の柱と位置付けて展開し、その内容を実現するため以下の目標を掲げている。

### 【目標】

- (a) 自分の将来を見据え、進路希望について十分に調べるとともに計画的に学習に取り組ませ、進路希望を実現させる。
- (b) 社会人としての基本姿勢を学校生活や部活動を通して身に付けさせる。
- (c) 自分やまわりの命を守る知識を身に付け、様々な状況に対応して危機を乗り越える力を育み、その方策を地域へ還元させる。

以下、上記の中から (a) 及び (c) の実践事例について報告する。

## 令和3年度 岩手大学理数探究セミナー

### 1. はじめに

例年、本校2学年普通科理系及び、災害科学科生徒10数名は、毎年8月に岩手大学で開催される理数探究セミナーに参加している。今年度は健康管理と感染予防に十分努めながら、2年生9名と3年生2名の計11名が、8月4日(水)に参加した。

### 2. 目的

- (1) 大学での学びに対する理解の深化
- (2) 生徒の学習意欲・進路意識の高揚
- (3) 高大連携を通じた教育活動の活性化



### 3. 内容

今年度は、事前に開講式と事前学習用の動画をYouTubeで視聴してから参加するなど、新型コロナウイルスの影響と思われる変更点があったものの、物理系、生命系、数学系、環境基盤・環境系の4つに分かれて、それぞれの会場(研究室・実習室など)に移動し、研究活動を終日体験することができた。

### 4. 結果

生徒たちは、大学での実際の学びに緊張しながらも、各専門領域の研究に対し、意欲的に活動に取り組んだ。また、大学で研究を行うためには、高等学校での基礎分野の学びが必要であることを痛感し、学業に対してこれまで以上に真摯に取り組む姿勢が醸成された。また、今回3年生も2名参加したのだが、そのうち1名は学校推薦型で同大学に出願し、見事合格を勝ち取った。

#### 【参加生徒の感想(一部抜粋)】

- ・実際に研究活動に参加してみて、改めて高校で数学と物理を学ぶ重要性を痛感しました。高校での基礎的な数学や物理の学力は一過性のもではなく、その延長線上に大学での専門的かつ発展的な学びがあり、抽象的な概念を成す根幹であると感じました。今後は大学入試に合格するための学びではなく、将来の地球環境を変えるための技術開発をめざす自分自身の将来のために学んでいきたいと思いました。
- ・今以上に高校での勉強を頑張るべきであることを痛感しました。なぜならば、今回参加してみて自分の知識の少なさと、積極的に自分から学ぶ大切さに気づいたからです。これからは特に予習に力を入れていこうと思います。また、大学進学に対する気持ちもより強くなりました。この経験は、自分にとっての大きな財産となりました。また機会があるならば、多くの生徒に経験して欲しいと思います。

## JR 東日本 宮城野運輸区における津波避難に対する意見交換会

災害科学科 1, 2 年生 10 名が、令和 3 年 8 月 10 日に東日本旅客鉄道株式会社（JR 東日本）宮城野運輸区の協力により、電車に乗っている時に地震・大津波警報が発令された場合の避難方法についての意見交換を行った。

まず、JR 東日本の安全対策を職員の方から紹介いただき、本校から災害科学科の取組を発表した。それらの取組をもとに、高校生から率直な質問をさせていただいた。JR 東日本宮城野運輸区には本校の最寄り駅である下馬駅があり、通学等で日常的に利用している生徒も多くいたため、最初は緊張した様子だった生徒たちも次第に防災や減災の視点からの質問が出るようになり、休憩時には各自で職員の方と意見交換を行っていた。

次に、地震・大津波警報が発令されたときを想定した電車からの避難訓練に参加した。組み立て式の階段を利用した降車だけでなく、電車から線路に飛び降りる避難方法を教わった。生徒から「電車から線路までは思っていた以上に高さがあった。しかし、きちんとした降り方をすれば恐怖感はなく降りることができた。」などの意見が出された。また、「地震・大津波からの避難では電車の運転手と車掌の 2 名で多くの乗客を避難させるため、率先避難者と呼ばれる一般の乗客の協力が必要です。そういった避難を率先して実行できるように避難方法を考えていくことに加え、自分の住む地域の避難場所はどこなのかといった地域の理解が必要だと感じた。」といった意見も出された。

最後に、シミュレーターを利用した運転体験・車掌体験を行った。

日頃なかなか考える機会がない、電車に乗っているときの津波避難の方法を様々な経験を通して幅広い視点から考える貴重な機会になった。この意見交換会で感じた課題や災害を学ぶ高校生ならではの気づきを課題研究でさらに深め、次回の意見交換会で提案する。



## 防災・減災・伝災を担う兵庫県、三重県高校生と多賀城高校生徒の交流会

1 月 8 日（土）に兵庫県立舞子高等学校 21 名、兵庫県内高等学校等 20 名、三重県内高等学校等 7 名、引率 14 名が本校を訪問した。本校は生徒会・災害科学科合わせて 18 名が交流・まち歩きに臨んだ。

本校到着後、生徒会長による歓迎の言葉ののち、互いの県の取り組みを紹介し、アイスブレイクを経て多賀城イオンに移動。以後グループに分かれて iPad を活用しながら津波波高標識の案内や当時の被災状況、そして末の松山に関する説明を行った。

多賀城駅前解散となる短時間の交流ではあったが、当初夏に訪問予定だった兵庫県立舞子高等学校に対するまち歩きが実施できず、初めての活動となった生徒も多かった。まち歩きの活動も継承が大事であることを改めて認識した。

